免震構造による地域防災力の向上

■　帰宅困難者、避難者受入れ施設と免震構造

大地震後には都心部などで多くの帰宅困難者が発生することが予想されています。帰宅困難者を受け入れる施設としては、地震直後に、まず応急危険度判定を行い安全であることを確認する必要があります。

一般の建物では、応急危険度を判定する上で、建物全体の点検を行う必要があり、時間がかかりますが、免震建物は、予想される被害が少なく、点検も免震層だけ行えばよいので、短時間で確認することができます。従って、帰宅困難者を受入れるまでの時間を短くすることができます。

また、大地震後には余震が多く発生し、避難者は、避難した施設で揺れを感じ、不安を覚えることになります。免震建物では、揺れそのものが緩和され、避難所の施設として、安全・安心に生活を送ることができます。

■　2004 年中越地震で避難施設として利用

小千谷総合病院介護老人保健施設「水仙の家」（当時）は小千谷市にある免震構造の老人保健施設で、2004 年中越地震で震度 6 強の揺れを受けましたが、地震直後から日常生活を継続でき、余震が多く発生する中で続く中で、周辺住民の避難施設としても利用されました。

外観

避難所に

小千谷総合病院老人保健施設水仙の家

地下 1 階、地上 5 階、延べ床面積　4,448m2

〔参考〕　平成 16 年度新潟県中越地震レポート（JSSI ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ）

：http://www.jssi.or.jp/about/detail/ojiya-rep1.pdf